

事業所における自己評価結果（公表）

公表: 令和6年2月26日

事業所名

のぞみ園

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	9	8	3		
	②	職員の配置数は適切である	2	14	4	法定配置は順守している が、業務が多岐にわたるた め、周辺業務(送迎・環境整 備)と直接支援の業務仕分 けを行っている	支援体制の見直しを随時実施していく。よ り丁寧に一人ひとりに関わることができる 体制作りを進めていく
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	14	6	0		
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル (目標設定と振り返り)に、広く職員が参画 している	9	11	0	各委員会(衛生・リスク・防 災等)会議を月1回実施し、 園内の業務改善に向けた話 し合いと実施後の評価を付 き1回実施している	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	12	7	1	年度ごとに事業計画を作成 しているが、その作成にあ たっては、保護者・職員から のサービス評価アンケート の結果も踏まえて作成して いる	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	9	11	0	結果の配布と事業所内掲 示、ホームページ掲載等 を通して公表、周知をして いる	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	16	4	0	年2回第三者委員へ評価結 果と苦情受付状況の報告を 実施し、ご意見を頂いている	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	18	2	0	研修委員会による研修管 理と鹿児島大学の先生と契 約を交わして事例検討会等 を年間を通して実施して いる	
適切 な支 援の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	15	5	0	保護者面談や家庭訪問を通 して、ニーズや課題を確認し それを個別支援計画に反映 している	ICTを導入し、共通のアセスメントツールの 活用を検討
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	12	5	3		ICTを導入し、共通のアセスメントツールの 活用を検討
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	7	1	毎日の申し送り会議の中で 活動プログラムの確認を実 施している	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	10	10	0		
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	10	10	0		
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせ放課後等デイサービス 計画を作成している	15	5	0	それぞれの成長段階に応じ てグループ分けをしながら 個別と集団の活動ができる ようにしている	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の内容や役割分担に ついて確認している	8	9	3	毎日の申し送り会議の中で 活動プログラムの確認を実 施している	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	8	9	3	支援後の記録時にその日の 振り返りを必ず実施してい る。必要であれば、次の日 の朝礼時にも話し合いや情 報共有する時間を作ってい る	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	14	6	0		
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	14	6	0		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ て支援を行っている	14	5	1		
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	13	7	0		
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っている	13	7	0	保護者からだけでなく、学校 からも行事等も含めた情報 共有を実施している。必要 時は学校に直接ご連絡して 確認することなども行ってい る	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えてい る	13	7	0	利用開始前の担当者会等で 情報共有を行ったり、必要 があれば受診同行して主治 医等と連携しやすい体制づ くりを行っている	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との 間で情報共有と相互理解に努めている	11	8	1	担当者会や保育所等訪問 支援事業等を通して並行通 園先と情報共有や支援の方 向性について共有できるよう にしている	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	13	7	0		
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	13	7	0	鹿児島大学の心理の先生 方と事例検討や職員研修を 年間を通して実施する中で 助言等をいただく機会を作 っている。また、自立支援協 議会の子ども部会主催の事 例検討会にも定期的に参加 している	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	4	9	7		感染症の影響もあり、交流については控 えているが今後は実施に向けて検討して いきたい
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している	10	8	2	参加が一部の職員だけに偏 ることがないように、派遣調 整を行う中で、地域支援や 地域課題を感じる機会作り を行っている	
保護者への説	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	14	6	0	玄関での保護者への声掛け 等において必ず担当職員を 配置してコミュニケーション が取りやすい環境作りを 行っている	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	5	11	4	外部専門家による保護者会 勉強会を年2回開催	ペアレントプログラムの実施についても検 討していきたい
	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等に関 して丁寧な説明を行っている	15	5	0	契約時に説明を実施。報酬 改定等において利用料の変 更がある場合は、その都度 説明会と同意書どりを行っ ている	
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14	6	0		
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	13	6	1	定期的に開催される保護者 会役員会に職員の担当者も 参加して、保護者交流等に つながる取り組み等を支援 している	
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の 体制を整備するとともに、子どもや保護者に 周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に 対応している	15	4	1	苦情受付指針・対応マニ ュアルを整備し、担当者が すぐに対応できる体制とな っている。また、契約時に 苦情受付とその後の対応に ついて必ず説明を行ってい る	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
明 責 任 等	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	14	6	0	お便り担当者を定め、定期 的に編集発行まで実施して いる	
	③⑤	個人情報に十分注意している	17	3	0	入職時のオリエンテーション と年1回の職員研修会にお いて個人情報の取り扱いや 守秘義務について研修を 行っている	
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	15	5	0		
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域 に開かれた事業運営を図っている	10	10	0	防災研修や行事等で地域の 方と交流する機会作りを 行っている	
非 常 時 等 の 対 応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に 周知している	17	2	1	各委員会(衛生・リスク・防 災等)会議の中で図時マ ニュアルの見直しを行いつ つ、議事録と一緒に回覧で 周知しながら訓練時に活用 するようにしている	
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、 救出その他必要な訓練を行っている	15	5	0	年間計画を作成し、様々な 災害を想定した訓練を実 施する	防災委員会を中心に、災害時に備えた備 品や非常食を今後も整備していく
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確 保する等、適切な対応をしている	19	1	0	毎月の委員会で虐待事案が ないかの確認をしていると 同時に、対応事例の書籍も整 備し必要時は確認しながら 対応できるようにしている	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し理解を得た上で、放課 後等デイサービス計画に記載している	12	6	2	身体拘束が必要な事例が発 生した場合に適切な手順で 対応できるように指針とマ ニュアルを整備している	職員研修も年1回必ず実施しているため、 その中でも対応やマニュアルについても確 認していく
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	19	1	0	必ず指示書の提出をお願い し、その内容に基づいた対 応を行っている	
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で 共有している	19	1	0	事業所内でタイムリーに検 討・対策の実施ができるよ うにマニュアルに基づく対応 を行っている。また、リス ク委員会で毎月確認するよ うにしている	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。